

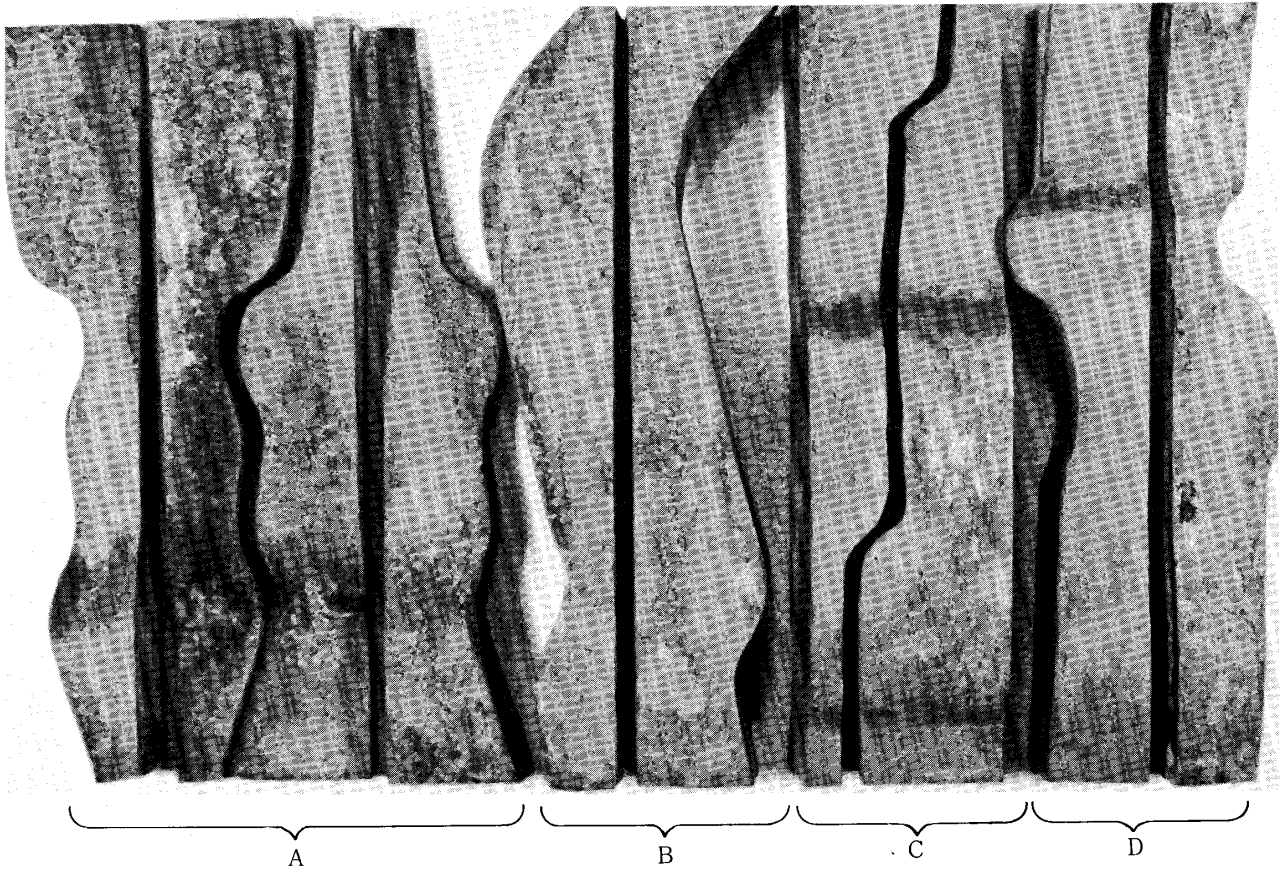
複合切断による構成(2)

Constructed by Complex Cutting

市原 康孝

立体の変貌とフォルムの意外性を、4組の直方体を複合切断（90度の異相をもつ2方向から切断し、4つの部分に合割）し、その組合せや配列上の効果にもとづいて提示したものである。Aは1つの方法による配列。Bは左右を入れかえた配列。Cは左右を入れかえ、更に90度回転させた配列。DはCと同じ状態のものを、更に左右に入れかえた配列である。各部分の相互関係は、組合せ配列等によって、ある種の関係と規制によって成立す

る。組合せ・配列によって同形のポジ（実体）とネガ（空間）が同存し、又暗示される。一定間隔をたもつ平行曲線や、隣接し且相関的な相似形の発見等々、立方相互間の関係、立体そのものに内在する2次形や、ある種のイメージの発見を容易にし、造形的刺激と素材感覚の相関性を高めるのではなからうか。そういった意味での試作例である。（複合切断の方法や展開等の方法については省略をした）



鑄物（ブロンズ・緑青色） H 170mm W 300mm